

総合計画審議会等の開催概要【平成26年度】

(1) 総合計画審議会（第1回～第2回）

回	開催日	主な議題
第1回	平成26年 10月31日（金）	【説明】 (1) 復興計画見直し・次期総合計画策定の方針 (2) 復興の進捗状況と住民意向 (3) まちづくりの着眼点と今後の課題 【議事】 (1) 総合計画審議会・作業部会の開催
第2回	平成26年 12月1日（月）	【報告】 (1) 第1回総合計画審議会の開催概要 (2) 第1回総合計画審議会・作業部会の開催概要 【審議】 (1) 新たな基本構想の構成について

(2) 総合計画審議会・作業部会（第1回～第5回）

回	開催日	主な検討事項
第1回	平成26年 11月17日（月）	◇町の現状と社会潮流について
第2回	平成26年 12月17日（水）	◇さまざまな主人公にとっての南三陸町の将来像 ◇将来像の共有化
第3回	平成27年 1月22日（木）	◇将来像の確認と補足 ◇課題・取組みの検討
第4回	平成27年 2月19日（木）	◇重点化すべき課題・取組み ◇将来像のブラッシュアップ
第5回	平成27年 3月12日（木）	◇基本構想骨子（作業部会案）について

(1) 総合計画審議会（第1回～第2回）

平成 26 年度 南三陸町総合計画審議会（第 1 回）	
日 時	平成 26 年 10 月 31 日（金） 13：30～14：30
場 所	南三陸町役場大会議室（B, C）
次 第	1. 開会 2. 挨拶（南三陸町長 佐藤 仁） 3. 委員委嘱・自己紹介 4. 会長・副会長の選出、挨拶 5. 説明 （1）復興計画見直し・次期総合計画策定の方針 （2）復興の進捗状況と住民意向 （3）まちづくりの着眼点と今後の課題 6. 議事 （1）総合計画審議会・作業部会の開催について 7. 閉会 出席委員数 10 名（委員の過半数に達しており、第 1 回南三陸町総合計画審議会が開催された。）
出 席	
決 定 事 項	●会長・副会長の選出 『南三陸町総合計画審議会条例』第 5 条に基づき、委員の互選により、総合計画審議会会長が選出された。また、会長の推薦により、副会長が選出された。 会 長：佐々木憲雄委員 副会長：及川吉則委員 ●総合計画審議会・作業部会の開催 『資料 2 総合計画審議会・作業部会の開催（案）』及び作業部会委員について承認された。
委員の 主な意見	●まちづくりの着眼点と今後の課題について ◇南三陸にポランティアに来て、南三陸を気に入った人が職員としてきてくれた。南三陸に貢献したいという人がかなり多い。 ◇外部から若い人を呼び込む施策をみんなで検討する必要がある。子育てのしやすさも重要である。 ◇改めて南三陸を見直し、ポランティアの方々が定住、結婚したというような、町の魅力をアピールしていく必要がある。 ●「南三陸町のこれからのまちづくり意向調査」の結果について ◇若い世代の意識がどうか、分析をお願いしたい。 ◇これからのコミュニティの育て方についての考え方も、今後、機会をとらえて調査をお願いしたい。 ◇事業の進捗状況と住民の意識の差がある。住民にも分かりやすく、情報を発信していく必要がある。



平成 26 年度 南三陸町総合計画審議会（第 2 回）	
日 時	平成 26 年 1 2 月 1 日（月） 1 8 : 0 0 ～ 2 0 : 0 0
場 所	南三陸町役場大会議室（B, C）
次 第	1. 開会
	2. 挨拶（佐々木会長）
	3. 報告事項 （1）第 1 回総合計画審議会の開催概要 （2）第 1 回総合計画審議会・作業部会の開催概要
	4. 審議 （1）新たな基本構想の構成について
出 席	5. 閉会 出席委員数 12 名 （委員の過半数に達しており、第 2 回南三陸町総合計画審議会が開催された。）
委員の 主な意見	●計画検討の姿勢について ◇悲観論ばかりでは前に進まない。あきらめないで前に進む、夢をつくるこ とが必要である。 ◇まちづくりの将来像に書かれていることが理念ではないか。これが舌足ら ずなので、町民に対してもっと明確にしたものに変える必要がある。もう 少し肉付けすると、町の計画として走っていきやすい。 ◇総合計画は、幕の内弁当にならないように留意する必要がある。この町が どんな町になるのか、目玉になること町民に分かるようにしていくべきで ある。 ◇病院や介護施設、教育はみんな大切だが、優先順位をどう設定するかが総 合計画に必要である。
	●まちづくりに必要な視点について ～人口減少問題との向き合い方について～ ◇今後の人口の見通しをふまえて、南三陸町の人口減少対策に力を入れた基 本構想を練っていく必要がある。 ◇南三陸町だけは、一人でも二人でも増えていくという前向きな考え方で施 策を練ってほしい。 ◇この町に残った方がよい、と思えるような条件・考え方・施策を打ち出し ていかないといけない。 ◇我々の世代は子どもも中心に考える。子どもが希望する高校に通わせて、で きるだけ、時間を取らせてやりたいと考える。今後の人口の見通しをふま えて、南三陸町の人口減少対策に力を入れた基本構想を練っていく必要が ある。
	～持続的ななりわいの再生について～ ◇大きなリスクを背負って新たな商店街に参加するので、できる限り持続的 な営業ができるような方策を現段階から考えていかないといけない。 ◇中小企業の振興の視点が不足している。現在、中小企業の振興に関する町 のあり方をまとめているので取り入れてほしい。 ◇山（森林資源）をきちんと産業化していく方向が必要である。

委員の 主な意見	～コミュニティ・ひとの力について～ ◇産業振興、観光振興とともにコミュニティ、人づくりが重要である。 ◇町外のさまざまな人材が南三陸町に来说たいと言っているが、住居がないこ とが問題となっている。町に住みながら活動できる体制があれば、他地域 から人を呼び込むことも不可能ではない。
	●取組みの方向性について ◇大きなリスクを背負って新たな商店街に参加するので、できる限り持続的 な営業ができるような方策を現段階から考えていかないといけない。 ◇観光客を見込んだ町の発展もあり得るが、我々は、町に住んでいる人たち が利便性を感じるような商店街づくりを考えている。そういう人たちに満 足していただけるような施設・設備を検討する必要がある。 ◇震災後、大学や研究機関から町にアプローチがたくさん来ているが、将来 のまちづくりのなかで、町の規模に見合った施設・機関の導入を本格的に 検討してほしい。働く場所、住む家を一体的にマッシュアップしていくことが 必要である。 ◇新しい商業地では、是非、一人でも多くの交流人口を呼べるようなまとま った施設を検討してほしい。 ◇歳をとるとコミュニケーションをとりづらくなるが、脳の活性化ができる ような交流の場所を商店街や高台の住宅地にもつくるとよい。高台から公 民館には集まらない人もいる。ボランティアも含めた人材が常駐してもら えるような施策が必要である。 ◇戦略的なブランド力の育成が進んでいけば、人口の流出抑制や雇用、持続 して働ける地域づくりにつながっていく。
	●具体の取組みについて ◇企業誘致だけでなく、例えば、大学誘致などを考えていってはどうか。千 人規模の若者が常時定着し、アルバイトの需要もある。ブランド化にもつ ながるのではないか。若い人が町を訪れるきっかけにもなる。 ◇年金をもらいながらやっいていけるような喫茶店、雑貨店などを高台に開い ていただきながら、大きな困地では、内科医や小児科などの個人医院でべ テランの医者が診療できるような場所を考えていくとよい。 ◇子どもの通学の方法が限定されていて不便である。道路も国道のみで、迂回 できる道がない。選択肢があるような道路のつくり方があってよいものでは ないか。鉄道駅を中心にまちをつくるような整備を進めていけば、町に住も うと考えるのではないか。 ◇三陸町は、世界的なプロジェクトが進む一関や北上に非常に近い。うまく 交通政策を進めると町ができてくる。高速通信網も、世界の来訪者にとっ ては非常に大きな意味を持つ。
	●構想の実現、まちづくりの推進について ◇連携・循環・自治に向けて、民間が努力していくことが大切だが、行政の 力も借りなければならぬ。行政のなかに、町のブランド力を高める組織 があるとよい。 ◇夢やイメージを描いても、実現するまでには難しい問題がある。実現する ための方策が最も重要である。

平成 26 年度 南三陸町総合計画審議会・作業部会（第 1 回）		
日 時 場 所	平成 26 年 11 月 17 日（月） 18：00～19：30 南三陸町役場大会議室（B, C）	
	1 開会、挨拶 2 委嘱状の交付 3 委員紹介・挨拶 4 説明事項（復興計画の見直し・次期総合計画の策定について） 5 議事（町の現状と社会潮流について） 6 連絡事項（第 2 回作業部会の開催について） 7 閉会	
次 第		
出 席	出席委員数 9 名	
検討結果 概要	●作業部会の検討の進め方について（確認事項） ◇はじめは委員 10 名でスタートする。今後、必要に応じて推薦をいただきながら増員することもある。 ◇素案を作る段階から、委員各々の立場から、町民目線に基づく町の将来像を描き、まちづくりの大きな方向性を検討していく。 ⇒10 年後も南三陸町として持続していくことを前提として検討 ⇒作業部会の検討成果を総合計画審議会に報告 ⇒作業部会では、町民目線で検討した町の将来像やまちづくりの方向性を検討し、これらふまえて、町で具体的な施策・事業の展開を検討する ◇基本的には、委員個々の自由な意見を出し合いながら、作業部会の成果としてまとめ、可能な部分を基本構想・基本計画の案に反映させていく。 ◇11 回の検討の中では、総合計画のすべての分野を詳細に検討することは難しいため、基本構想・基本計画に関しては、町から検討のポイントを明確にした資料を提示しながら、的を絞った検討を行う。 ◇震災復興計画推進会議の提言が施策・事業につながるよう、計画への反映に留意する。	
	●検討に際しての重要な視点について（主な意見） ～人口減少（流出抑制）と超高齢化の問題について～ ◇人口減少社会にあって、人口が少なくとも成立するような地域社会のあり方・仕組みを考えること、今から準備できることが重要である。 ＜関連する意見＞ ⇒1 年後には高速道路のインターチェンジが整備される。人口流出の抑制に関しては明日、明後日の問題として早急に検討する必要がある。 ◇将来の人口構成を変えていけるような施策・事業に重点をおくべきである。 ◇超高齢社会の先進地としてビジョンを描くことが希望につながる。そういうものを町民意識として共有すべきである。 ◇今、何が必要なのか、という視点も重要である。高齢者たちが住みよい町になることをまず検討するべきである。	

（2）総合計画審議会・作業部会（第 1 回～第 5 回）

検討結果 概要	～総合計画のつくり方について～ ◇イラストなどを活用しながら、子どもが未来をイメージできる分かりやすい計画、高齢者にも読みやすい計画をつくるべきである。 ＜関連する意見＞ ⇒子どもたちに町の未来予想図を見てもらって意見を聞くような機会があるといい。 ◇計画のベースとして子どもたちの意見が反映されていることが大切である。子どもたちの意見を集約して伝えていただく立場として、学校の先生などを作業部会に参画していただくことも必要である。
	●第2回作業部会の開催について 日 時：平成26年12月17日（水） 18：00～ 議 題：町の将来像（目標像） ＜委員個別の事前検討＞ 個人や家族などの視点から描く将来像の検討（将来像検討シートの記入） ＜関連する意見＞ →町民の目線で将来像を描くことが大切である。ものがたりを描いて、町民が主人公であることを意識してビジョンを描いていくのは重要なことである。

平成26年度 南三陸町総合計画審議会・作業部会（第2回）	
日 時	平成26年12月17日（水） 18：00～20：30
場 所	南三陸町役場大会議室（B，C）
次 第	1 開会、挨拶 2 報告事項（第2回総合計画審議会の開催概要） 3 検討作業（さまざまな主人公にとつての南三陸町の将来像／将来像の共有化） 4 連絡事項（第3回作業部会の開催について） 5 閉会
出 席	出席委員数6名
検討結果 概要	■第1回総合計画審議会・作業部会（11月17日（月）開催）に配布した「将来像検討シート」に基づき、個人や家族などの視点から生活や活動の場面などについて、各委員が発表した。 発表順：工藤（真）委員（欠席のため代読）、鈴木委員、高橋（史）委員（欠席のため代読）、伊藤委員、西坂委員、高橋（寛）委員、山内委員、工藤（昭）委員 ■発表内容については、別紙1「将来像検討シート」による主なキーワードの整理、別紙2「～みんなで考える南三陸町の将来像～ 登場人物のポジショニングマップ」にまとめた。 ■資料とともに配布した「課題・取り組み検討シート」については、1月9日（金）までに事務局に提出することとなった。（ファクシミリ、メールなど） ※年内に、事務局より第2回総合計画審議会・作業部会の開催概要を送付する
	～第3回作業部会の開催について～ 日 時：平成27年1月22日（木） 18：00～ 議 題：将来像と課題、取り組みの方向性 ＜委員個別の事前検討＞ 将来イメージと現状のギャップ、まち・地域をどんな状態にする必要があるか、取り組みの方向性（課題・取り組み検討シートの記入）

家族が暮らせる町（移住したいと思える町）

〔健康〕〔医療〕〔教育〕〔職〕〔住居費・交通費〕など

年代ごとのイメージ

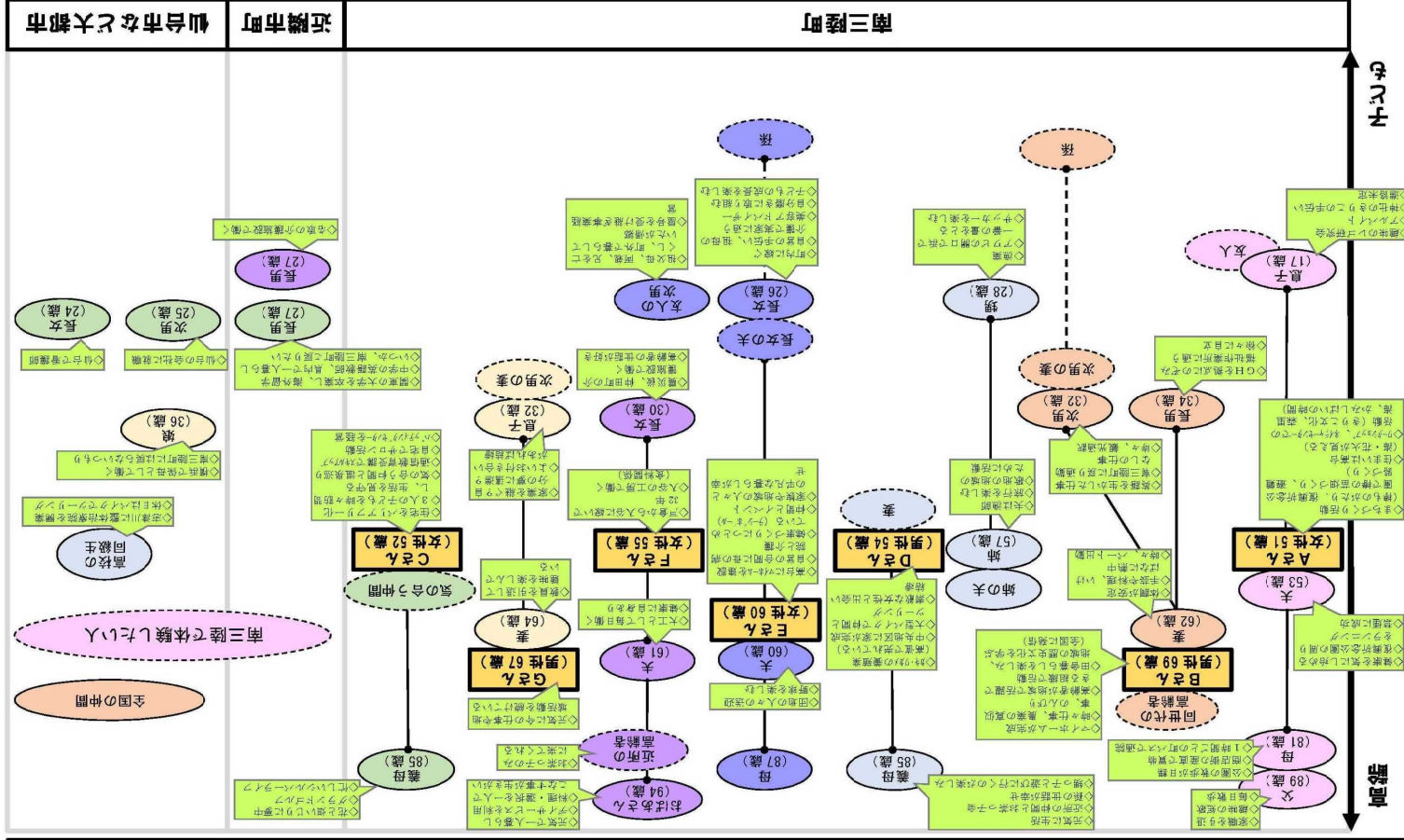
高齢者層	自宅に引きこもりならず、暮らしを楽しむ力を持っている (自力でも、仲間とでも) ・ ゆっくり暮らす高齢者 ・ 元気に暮らす高齢者 (スポーツ、地域貢献、少しの収入)
中高年層	仕事をしながら、町外の人々となつながら、 自分の趣味を広げたり、情報を発信している
若い世代	ふるさとに帰って暮らすために自分の特技・力を活かしている (学校教育や地域の祭り・文化を通して町に暮らす力や思いが育つ)
子どもたち	(次回、更に検討予定)

主なキーワード

住まい	働く	地域活動
・ マイホームの建設 ・ 終の棲家となるまち ・ 住宅をバリアフリー化 ・ グループホームを拠点とした自立した暮らし	・ パート勤務 ・ アルバイト ・ 町に戻り、特技を活かして働く (英語、美容、整体治療)	・ ワークショッップ (きりこ、森里海) ・ サロン活動 (自宅を拠点とした交流) ・ 高齢者が活躍できる組織 ・ 椿ものがたり ・ 避難路づくり
ライフスタイル	趣味・余暇	外部から感じる魅力
・ 生活の中に幸せ・喜びを見つける力 ・ 忙しいシルバークライフ ・ 一人でも高齢の暮らしを楽しむ力 ・ 地域で活動しながら、自宅に閉じこもらず元気で暮らす (元氣、お茶っ子などの交流、デイサービス、一人でも家事をこなす) ・ 仙台や近隣市町に子どもが暮らし、生活を見守る (時々訪ねていける距離)	・ 健康づくり (散歩、ランニング、グラインドゴルフ、野球、ラリージボル) ・ 趣味 (手芸、料理、バイクのツーリング、花、煙いじり) ・ 仕事や農作業をしながら暮らす ・ スキルアップ	・ 名所・散策道 ・ マラソンコース ・ 祭り ・ 高齢者の終活 ・ 若い世代が集まる仕掛け ・ 学校教育 (地域で暮らす力を持つ人づくり)
生活	震災復興記念公園	
・ 地元商圏 ・ 息抜きできる店 ・ 店街の産直での買物 ・ バスでの通院	・ ランニング ・ 散歩 ・ 椿の苗畑	

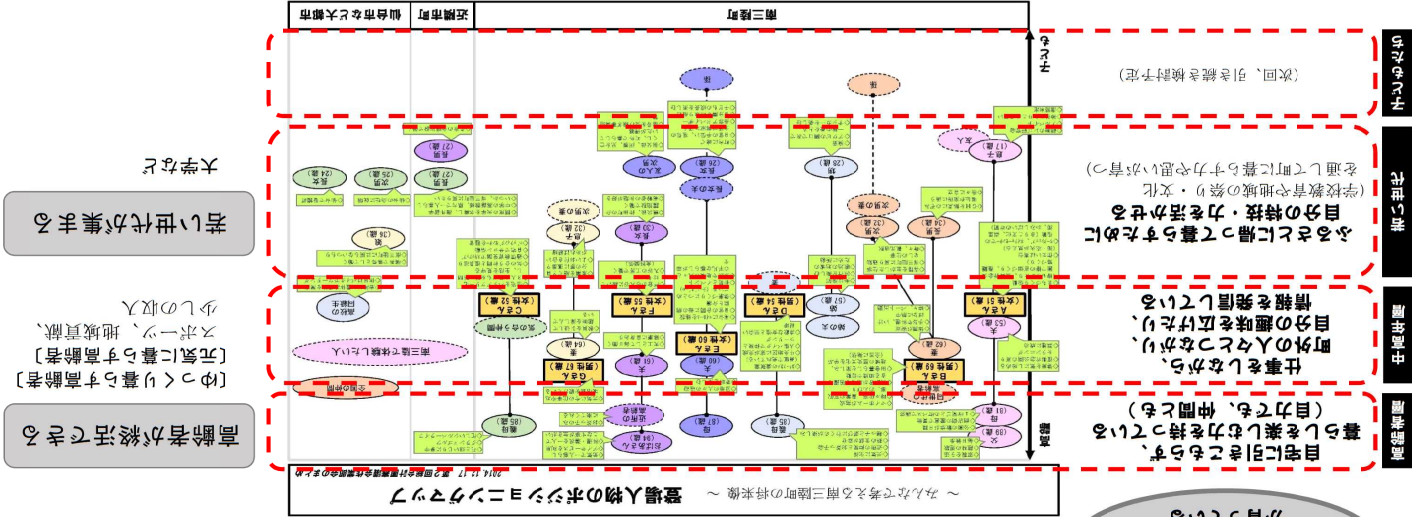
登場人物のポジショニングマップ ～ みんなで考える南三陸町の将来像 ～

別紙2



家族が暮らせる町（移住したいと思える町）

日常の暮らしの中に
幸せ・喜びを見つける
力が育っている



学校教育
小・中・高等学校
[文][武]

地元商圏

名所・散歩道

スラッソンス

息抜ける店

祭り

平成26年度 南三陸町総合計画審議会・作業部会（第3回）	
日時	平成27年1月22日（木）18:00～19:55
場所	南三陸町役場大会議室（B, C）
次第	1 開会、挨拶 2 報告事項（第2回総合計画審議会・作業部会の開催概要） 3 検討作業（将来像の確認と補足／課題・取組みの検討） 4 連絡事項（第4回作業部会の開催について） 5 閉会 出席委員数7名
出席	■ 第2回作業部会で検討した町の将来像を確認した上で、継続して検討が必要な子ども世代の将来像について、事務局作成例をもとに検討を行った。 ■ 「課題・取組み検討シート」に基づき、将来像のキーワードや課題、取組みの方向性について、各委員が発表した。（当日配布の各委員のシートに基づく検討） 発表順：鈴木委員、工藤（真）委員、伊藤委員、高橋（寛）委員、畠山委員、山内委員、高橋（吏）委員 ■ 検討結果は、別紙1「将来像をイメージした課題、取組みの検討」にまとめた。
検討結果概要	～第3回作業部会の開催について～ 日時：平成27年2月19日（木） 18:00～ 議題：まちづくりの視点について ※特に、町として（町民として）重点的に考えるべき課題や取組みについて ＜委員個別の事前検討＞ 特に重要となる課題や取組み 共通する『視点＝切り口』

将来像をイメージした課題、取組みの検討

●町の将来像の検討【第2回作業部会、第3回作業部会（確認・補足）】

■軸となるイメージ

家族が暮らせる町（移住したいと思える町）

〔健康〕〔医療〕〔教育〕〔職〕〔住居費・交通費〕など

◇未来へ紡ぐ
まち

◇みんなのまち・会話
のできるまち

◇安定・持続する町の規模
（人口・産業・行政サービス）

■年代ごとのイメージ

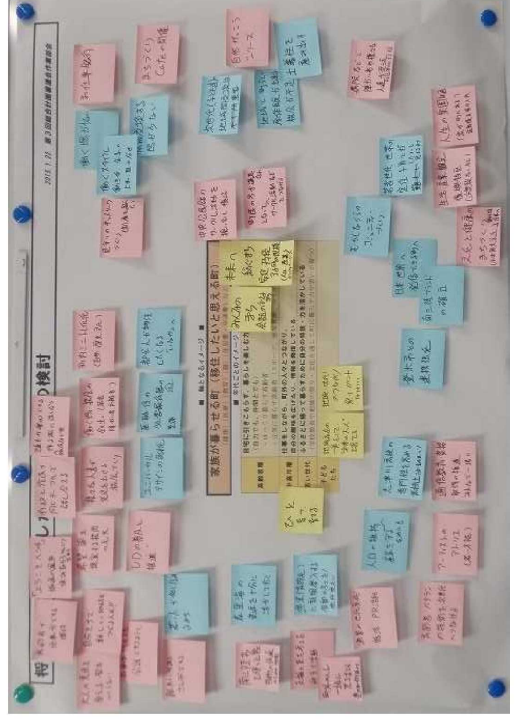
高齢者層	自宅に引きこもらず、暮らしを楽しむ力を持っている （自力でも、仲間とでも） ・ ゆっくり暮らす高齢者 ・ 元気に暮らす高齢者（スポーツ、地域貢献、少しの収入）
中高年層	仕事をしながら、町外の人々とながら、 自分の趣味を広げたり、情報を発信している
若い世代	ふるさとに帰って暮らすために自分の特技・力を活かしている （学校教育や地域の祭り・文化を通して町に暮らす力や思いが育つ）
子どもたち	（第3回作業部会での検討・補足）

◇地域社会の一員として
“未来の大人”を
育てる

◇なりわいや祭り・イベントを通じて地域・世代のつながり

◇人が育つ、人を育てる

●課題・取組みの検討【第3回作業部会】



～ 検討成果の整理 ～

課題 【水色の付箋紙】

- ◇若い人が多く住める町
- ◇医、職、住の必要最低限以上の整備
- ◇ユニバーサルデザインの具
体化
- ◇都会人が移住したくなる
「いなか」へ

- ◇働く場が少ない
- ◇働くスタイル
（働き手、企業の仕事のやりが）
- ◇情報交換する場が少ない

- ◇次世代（子供連）の地域間交流
- ◇地域で町らしい原体験が
来る機会不足
- ◇土着性を産み出す

- ◇南三陸ブランドの確立
- ◇昔ながらのコミュニティづくり
- ◇若者世代、世帯の定住、子
育てがしたいと思える
- ◇登米市との連携強化
- ◇日本、世界へ発信できる町へ

- ◇人口の維持（産業を守る）
- ◇森、里、海の資源を十分に
活かして行く
- ◇漁業従事者の高齢化
⇒外部からの新規参入
⇒世代変えたい
⇒志津川高校の専門性高める
（高校までは地元で通学）

取組みの方向性 【ピンク色の付箋紙】

【ここらの壁をなくす】

- ・自分たちで新しい地域をつくる！
- ・大人の意識を変える、壁を作らない
- ・行政と住民が同じテーブルで話し合える
（場・機会づくり）
- ・様々な人達が意見を出せる機会づくり
- ・誰もが参加できる、施設などを作る前に話し合う
希望、夢を提案する機会の充実
- ・出身は別々でも会話できるように

【暮らしのなかの障壁をなくす】

- ・高齢者が仕事をできる環境
- ・働く場、機会の創出（若者、障がい者、高齢者）
- ・賑わいがある散歩できる
- ・「ようこそベンチ」の設置
（坂道の途中で休みながらゆっくりできるまち）
- ・UDの普及と推進
- ・町内ミニレイル化（自然、歴史、文化）

- ・お仕事銀行
- ・制度を超えた見守りのネットワークづくり
- ・まちづくり Cafe の開催

- ・自然学校シリーズ
- ・中央公民館のサークル活動を拾い出し復活
- ・町民の方が講師となってサークル活動などをつな
げる
- ・障がい者や様々な人達が交流、社会参加する場（病
院などの公共のスペース）

- ・人生の楽園計画（家が町にある）
⇒定年後を受け入れ
- ・生活、産業、観光、復興特区
（消費税なしの特例など）
- ・文化と健康のまちづくり
（小・中・高・大学生の仕事→働く場）

- ・南三陸杉を使った家、技術伝承の機関
- ・漁業の世代変化、婚活、PR 活動
- ・高齢者、ベテランの技術を次世代へつなげる
- ・支援に来た方々を迎える活動
- ・アーティスツのアトリエ（若い才能）
- ・町外の人と一緒に花を育てる
⇒豊かな街並み
- ・通信教育、資格取得の推進、皆で一緒に

目指したい町の将来像

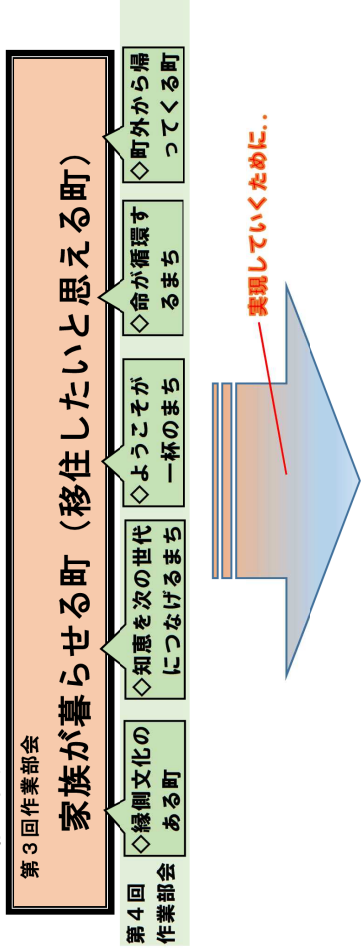
平成 26 年度 南三陸町総合計画審議会・作業部会（第 4 回）	
日 時	平成 27 年 2 月 19 日（木） 18:00～20:00
場 所	南三陸町役場大会議室
次 第	1 開会、挨拶
	2 報告事項（第 3 回総合計画審議会・作業部会の開催概要）
	3 検討作業（重点化すべき課題・取組み／将来像のブラッシュアップ／検討結果の確認）
	4 連絡事項（第 5 回作業部会の開催について）
	5 閉会
出 席	出席委員数 8 名
検討結果概要	■ 第 3 回作業部会で検討した将来像をイメージした課題や取組みの検討結果を確認し、まちづくりの視点について検討を行った。
	■ 検討結果は、別紙 1「まちづくりの視点の検討」にまとめた。 ～ 第 5 回作業部会の開催について～ 日 時：平成 27 年 3 月 12 日（木） 18:00～ 議 題：基本構想骨子（作業部会案）について ＜委員個別の事前検討＞ これからの南三陸町に相応しい基本構想のあり方について

まちづくりの視点の検討

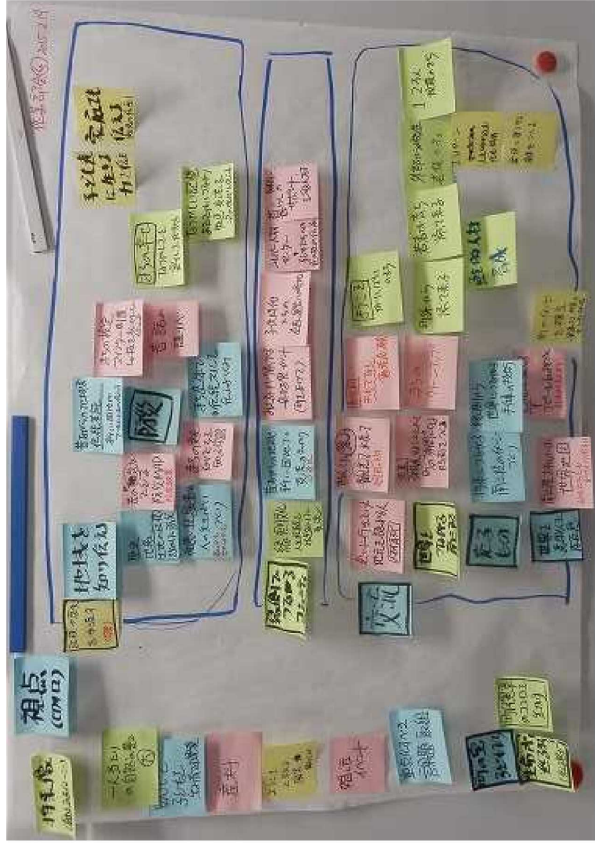
～ 検討成果の整理 ～

●町の将来像の検討〔第 3 回作業部会〕への補足〔第 4 回作業部会〕

■軸となるイメージ



●まちづくりの視点の検討〔第 4 回作業部会〕



まちづくりの視点	将来像	取組の方向性
◆記憶や歴史・知恵を手渡す (伝承・学習・防災)	・ につかし記憶・知恵や文化のあるまち ・ 生命が巡るまち	・ 歴史・地名・土地の記憶を伝え、防災に活かす ・ 知恵・経験豊かな人の生きがいにつなげる ・ 昔の地名でたどる防災マップ、防災教育をする ・ 昔ながらの地域で伝統芸能を新しい団地に伝える ・ まちの文化やなりたちを知る学習をする ・ まち全体で伝統文化を伝える仕組みをつくる ・ マイスター検定制度などで町の文化を紹介できる人を増やす ・ 技を子供たちに伝える、語り部に昔話を伝えてもらう ・ 町の宝の子供たちに生きる力を伝え、家庭でも知恵を伝承する
◆縁側で人と人をつなぐ (コミュニティ)	・ 縁側文化を活かして交流するまち	・ 昔ながら地域と新しい団地で交流のきっかけをつくる ・ 子供時代から祭の企画、運営に参加してもらう ・ シルバー人材から子供たちへ匠の技の伝承をしてもらう ・ 気軽に暮らしのサポートをする人材を育てる
◆世界とつながるまちをつくる(交流)	・ ようこそがいっぱいのまち	・ 会いに行きたい人、地元を語れる人をつくる ・ 観光や水産などの「強み」を活かす ・ おもてなしの勉強会をする(震災前にやっていたことを復活) ・ 漁業体験・農業体験などで町の“仲間”になる時間を作る ・ まちをきれいに(クリンアップ)する ・ 南三陸を中心にした子供たちも分かりやすい世界地図をつくる ・ おもてなしをアピールする。 ・ 町のイメージを確立し、世界に存在感を示す
◆帰ってくるまちをつくる(定住)	・ 町外から帰って来るまち、若者が育ち帰って来るまち ・ 町外から移住できるまち ・ 将来人口1.2万人*規模のまち (*上位推計)	・ 町ぐるみで皆が帰って来る、集まる、祭、イベントをする ・ 若者が出会え、家庭が築けるように婚活などを支援する ・ 鯉のように故郷に還ってくる人材育成をする ・ 安心して子供を生ま育てる環境をつくる ・ 家族で暮らせる条件整備をする

平成26年度 南三陸町総合計画審議会・作業部会（第5回）		
日時	平成27年3月12日（木）18:00～20:00	
場所	南三陸町役場中会議室	
次第	1 開会、挨拶 2 報告事項（第4回総合計画審議会・作業部会の開催概要） 3 検討作業（基本構想骨子（作業部会案）について） 4 連絡事項（第3回総合計画審議会への基本構想骨子（作業部会案）の報告について） 5 閉会	
出席	出席委員数7名	
検討結果概要	■ 総合計画審議会における意見や第1～4回作業部会での検討結果を踏まえて、作業部会の案として基本構想の骨子をまとめた。 ～作業部会の案としてまとめた「基本構想の骨子」の構成～ 第1章 南三陸町のまちづくりが目指すこと 第2章 人口・経済等の見通しと目標 第3章 将来人口 第4章 土地利用のあり方 第5章 施策の大綱 ～まちの将来像に関する作業部会の意見～ ◇作業部会として3案を報告する ・ 発展的に将来像を変更する（2案） ⇒「はじめよう」というフレーズを入れて、振返ったときに行動できているかどうか、自身への問いかけられるようにする ⇒震災により、気付きを得たことを示すため新しいフレーズにする ⇒「家族で暮らす・・・」は限定的であるため、「みんなが暮らす・・・」を案とする ・ 現計画の将来像をそのまま踏襲する（1案） ～まちづくりの視点に関する作業部会の意見～ ◇地域の歴史やそのなかで培った教訓が防災、生き抜く力、コミュニティにながっていくことを表現できるようにする （「地域文化の学習」に関する記述、「コミュニティの再構築」の記載順） ◇地域のブランド化に関しては、地元の中小企業の振興についても意識できるように記述する。 ◇4つの視点に序列がないことを示すため、円形で相互につながっている図で表現する。中心に、キーワードを配置する。（紡、環（わ）、絆、人、維など） ～将来人口に関する作業部会の意見～ ◇現状から平成30年くらいにまでの人口として推計される規模（1万3～4千人程度）で、維持目標人口を設定することが望ましい。 ■ 検討結果としての基本構想骨子（作業部会案）は、第3回総合計画審議会（3月24日（火）開催）に報告する事となった。	

※基本構想骨子（作業部会案）は、第3回総合計画審議会の資料4参照